

第3回 学校再編検討会

議事概要

日時：令和3年7月5日（月）

場所：市役所3階 第3会議室

15:20～16:30

1 あいさつ（小林教育長）

前回示したスケジュールに沿って協議を行う。今回は財政面の見直しを中心とした内容になる。担当課からの説明を元に率直な意見をいただきたい。

2 協議事項

（1）財政的な見直しについて

部外秘資料に沿って財政課長説明。

- ・ 芦原中学校区の小学校を統合して新校を建設することが急がれる。優先的に実施したい。
- ・ 答申にある小諸東中学校区に野岸小・東小の統合小学校を建設するためには、財源の確保が欠かせない。また、両校の将来の児童数予測は不確定要素が多く、「減少」にしる「増加」にしる、どこまで信頼できる数字とみるかが課題だ。芦原中学校区を優先とすることから、当面小諸東中学校区は、現状維持で校舎の長寿命化を図っていくことが求められる。
- ・ 学校の再編に加えて現在各校の近隣にある児童クラブや児童館の扱いも検討が必要だと感じた。学校と同じく統合するのか検討が必要。迎えに行く保護者の立場で考えると学校の近くにあれば便利。
- ・ 野岸小は新しい校舎をしっかりと活用し、古い校舎については補修し現状維持したらどうか。
- ・ 野岸小を小諸東中学校区と考えることに違和感を持っている。自分が野岸小の保護者であれば子どもに新しい校舎に通って欲しいと思う。
- ・ 野岸小の立地を考えると東小と統合する意識がつきにくい。坂の上小とセットで考える方が分かりやすい。
- ・ 野岸小を芦原中学校区に組み入れてしまうと、芦原中学校の規模が大きくなりすぎてしまう。野岸小を小諸東中学校区として考えることが妥当だと思う。芦原中学校区の新校創設後、すぐに新たな校舎建設の基金を積み立てていく等していきたい。

小諸東中学校区での校舎建設までの間には今後 10 年以上の期間がかかることが予想される。10 年後から先の野岸小と東小の児童数の変化と学校規模を今の段階で予測するのは困難だ。芦原中学校区の新校創設後に、改めて野岸小の扱いを検討すべきだと思う。

- ・ 今後、野岸小学校は、さらなる児童数の減少が見込まれる。東小学校についても児童数の予測は不確定要素が大きい。校舎施設等について現状維持を保つ間の学習環境の確保にむけて、必要な専科教員を確保するなど、教育上の配慮が必要だ。

⇒ 答申のとおり、坂の上小、水明小、千曲小を芦原中学校区、野岸小、東小、美南ガ丘小を小諸東中学校区として検討を進める。

芦原中学校区内の 3 小学校の統合、新校建設を優先して行い、小諸東中学校区内の小学校については、10 年後以降の信頼性のある児童生徒数の予測が困難であるため、およそ 10 年後に改めて児童生徒数を推計しなおして方向性を出すこととする。

(2) その他

- ・ 次回：7 月 21 日（水）開催予定